

MIS011-06

会場: 304

時間: 5月24日10:15-10:30

日本における「第三紀」の取扱い方

Usage of the term Tertiary in Japan

天野 一男^{1*}

Kazuo Amano^{1*}

¹茨城大学理学部地球環境科学コース

¹Dept. Earth Sci., Ibaraki Univ.

日本列島の地表に分布する地層中に第三系の占める割合は大きい。そのため、日本では「第三系」、「第三紀」という用語はたいへんポピュラーであり、現在も使われている。しかし、国際的には1989年から国際地質科学連合 (IUGS) が地質年代の国際基準として使用を推奨してきた地質年代表において第三紀 (Tertiary) はすでに削除されていた。

2009年6月30日には、IUGS執行委員会が、第四紀を正式の地質時代として認め、その始まりを2.588Maとすることを批准した。そして、日本でもこれに対応することが必要となった。日本学術会議 (地球惑星科学委員会IUGS分科会, INQUA分科会)、日本地質学会、日本第四紀学会が協議し、この批准内容を日本にも導入することとした。その結果、第三紀 (系) の取り扱いも国際的な基準にあわせて検討することが必要となった。検討の結果、下記のような取り扱いをすることとなった。

(1) これまで新第三紀・新第三系と古第三紀・古第三系を併せた地質時代として用いられてきた、第三紀・第三系は非公式な用語として使用することができるが、学術論文、教科書、地質時代・年代層序表には使用をしない。

(2) IUGSが定義するNeogene Period・Neogene System, Paleogene Period・Paleogene Systemに対応する日本語として、新第三紀・新第三系, 古第三紀・古第三系を従来どおり使用する。従って、新生代・新生界は、第四紀・第四系, 新第三紀・新第三系, 古第三紀・古第三系に3区分される。

第三紀を正式の用語からはずした国際的な経緯は、次のようになる。Paleogene Period/Systemが1991年に、Neogene Period/Systemが1996年に、IUGSで国際的に使用できる単位として承認された結果、Tertiaryは非公式な用語となり、TertiaryとNeogeneの終わりはQuaternaryの始まりで定義されることとなった。Quaternaryの始まりについては長いこと議論されてきて、このたびGelasianをふくめることで決着したが、このことはTertiaryの意味を変えてしまったことをなす。これまで使ってきたTertiaryは、当然のことながらGelasianをふくむものである。ここで、今回の国際基準として推奨されたQuaternaryの新定義を認めて、かつTertiaryを使うとすると、そのTertiaryはGelasianをふくまないで、そのことを他者が誤解せずわかるようにしなければならない。GelasianをふくまないTertiaryを再定義して正式に使うとする提案も可能であろうが、そのGSSPの設定から、調査・研究、国際基準として認知させるまで、大変な作業となる。実際には、地質用語として同じ意味で用いることが大事なことから、Tertiaryの用語の使い方には注意しなければならない。とくに海外との対応においては、なおさらである。今回の第四紀の定義問題をきっかけに関連学界で共通認識していく必要がある。

キーワード: 第三紀, 新第三紀, 古第三紀, 第四紀

Keywords: Tertiary, Neogene, Paleogene, Quaternary